

点描ぐんま経済

日銀支店長
見聞録

■86■

おとしの3月、群馬を家族旅行し、温泉と春スキーを楽しんだ。1年半後に群馬で働くことは当然知らない。その際、私の一存で入れた旅程が赤城大沼の氷上ワカサギ釣りだ。氷に穴を開けて釣り、揚げて食べるという楽しみ方に長い間憧れていた。ついに実現の時だ。

いてついた大沼にポイントが点在する眺めは静謐で、幻想的ですからある。ドリルで穴を開ける作業は心躍り、子どもは穴からのぞく湖に興味津々。しかし、関東のワカサギ釣り場でも屈指という寒さ

赤城大沼のワカサギ

は、私の甘い想像を超えていた。しかも、糸を垂らせばすぐ釣れるかと思いきや運悪くそうはいかない。30分

氷上穴釣りの思い出

ろしいもので、観光地とされる大沼での給油を考えた。だがスタンドなどない！それを食堂で話したところ、地元の方々は優しく冷静に「麓まで下りなのでアクセルを踏ま

膨らんだ。ところが、である。どなたもその話に表情一つ変わらないのだ。

た、歴史ある冬の娯楽に違いない。

真つ先に音を上げたのが私だ。湖畔の食堂の熱々のフライで取り繕ったが、私の気持ちがワカサギの味同様、少しほろ苦かったのは言うまでもない。

着き、その後初訪問と相成ったのがこの原稿を書いている前橋中心街だ。さて、群馬に来るに当たり思い付いたのは、着任あいさつで

「(前支店長) 岡山の後任が岡山出身の私です」の方がよほど反応していた。内心ひどく戸惑った。どうやら、私が群馬では氷上ワカサギ釣り

中。赤城山を眺めるたび、大沼に再挑戦すべきか悩むとともに、2年前気付かぬ間に始まっていた群馬との縁を思っ。

群馬の方は親切との

今も変わらぬ印象を持つたのはこの時の出来事だ。大沼到着の随分前に給油ランプが点灯したが、無知とは恐



渡辺真吾(わたなべ・しんご) 1972年生

まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米ミシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。